

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------|----|--------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービスえみんぐ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 4月 1日 | | 2026年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 14 | (回答者数) 9 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 4月 1日 | | 2026年 1月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 2日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | ・専門性を持った適切な支援を実施している | ・有資格者の専門性を活かし、支援計画に基づいて、子ども一人ひとりの特性や状況に応じた支援を行っている。 ・日々の申し送り等を通して支援内容を共有し、職員間で共通理解を持ちながら支援の質の向上に努めている。 | ・研修等を通して専門知識や支援技術の向上を図り、学んだ内容を日々の支援に継続的に反映していく。 ・職員間での情報共有や振り返りを大切にし、支援の質のさらなる向上につなげていく。 |
| 2 | ・情報共有について | ・SNSを活用し、日々のレクリエーションや子どもたちの様子を継続的に発信することで、事業所での支援内容が保護者に伝わるよう工夫している。 ・活動の目的やねらいが分かる発信を意識し、家庭でも子どもの様子を共有しやすい環境づくりを行っている。 | ・SNSでの発信内容について、支援の視点や学びにつながる情報も取り入れ、より分かりやすく伝わる発信を目指していく。 ・継続的な発信を通して、保護者との信頼関係を深め、支援への理解促進につなげていく。 |
| 3 | ・利用者の満足度について | ・子ども一人ひとりの特性や気持ちを大切に、安心して楽しみながら参加できるよう、活動内容や関わり方を工夫している。 ・日々の様子や成長を丁寧に伝えることで、保護者が支援内容を実感できるよう意識している。 | ・子どもや保護者の声を大切に、日々の支援や活動内容の見直しに活かしていく。 ・安心して利用できる環境づくりを継続し、満足度の向上につながる支援を行っていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 父母の会や保護者会等での保護者同士の交流の機会やきょうだい同士の交流の機会について | ・父母会や保護者会といった定期的な交流の場を設けておらず、保護者同士やきょうだい同士の交流機会が限られている。 ・各家庭の生活リズムや就労状況が異なり、定期的な集まりの開催が難しい状況がある。 | ・形式的な会の設置にこだわらず、親子やきょうだい参加できるレクリエーション等を通して、交流の機会を提供していく。 ・年に数回実施している親子参加型レクリエーションについて、内容や目的が伝わるよう周知方法を工夫していく。 |
| 2 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会について | ・放課後の限られた時間内での支援となるため、放課後児童クラブや児童館等との活動時間が合いにくい状況がある。 ・子ども一人ひとりの特性や支援内容を考慮すると、集団での交流機会の設定が難しい場合がある。 | ・地域行事やイベントへの参加など、無理のない形で地域との交流機会を取り入れていく。 ・子どもが安心して参加できる活動内容や環境を検討し、地域との関わりを段階的に広げていく。 |
| 3 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているかについて | ・事業所行事への地域住民の招待については、児童の安全確保やプライバシーへの配慮が必要であり、実施のハードルが高い状況がある。 ・日常の支援業務を優先しているため、地域住民を招いた行事の企画・運営まで十分に手が回っていない面がある。 | ・児童の安全や安心を最優先とした上で、地域行事への参加や地域イベントへの協力など、間接的な形で地域との関わりを継続していく。 ・事業所の役割や支援内容が地域に伝わるよう、無理のない範囲で地域との関係づくりを検討していく。(地域清掃など) |